製本のススメ　Vol. 98

ＧＷも過ぎてそろそろ夏休みの計画でしょうか？毎年の事ながら、この時期は来る夏に向けてダイエットの季節でもあります。メタボ検診で止められない様に、男女を問わずウエイト管理を始めましょう！

今回は『**今更　聞けない**』話し①

この製本のススメも 間もなく2度目の 100 回を迎えます。そこでスッカリ忘れている**無線綴じとアジロ綴じの違い**をおさらいしてみましょう。

そもそもは、糸綴りが本作りの基本です。しかし接着剤の進歩もあり、糸を使わずに製本できるようになりました。そこで接着剤が折丁の中へ入りやすいように、折る際に**切り込みを入れて本文を折るようにしたのがアジロ折です。**折り丁を積み上げると網目の様な模様に見える事から、アジロと呼ばれたらしいのですが・・・（謎）

さて、左の絵で分かるように、切り込みがありますが全部切れておらず、切り取りミシンの様に所々繋がっています。そのため、ノド下まで開いてもページの紙抜けが無くペラ丁合より強度が見込めます。アートやコート等の塗光紙類には、ホットメルトとの相性が悪い物が有りますので、その際には、アジロ折にしておいた方が安全です。

このアジロ折にした本文に表紙を付けるのが**アジロ綴じ**です。アジロ綴じでは、**背をミーリングカッターで切り落としません。**（せっかく、繋がっていますから）

間違いを起こし易いのが**無線綴じ**です。これは、ペラ丁合で加工の際に多く使われます。軽印刷では主に使われる製本スタイルで、折時間が無いため短納期向きです。刷り本がペラ物であるために、**背をミーリングカッターで切り落とします**（断裁と違い、背の接着部分を荒らし接着剤と馴染みやすくする為です）

綴じ方が変われば本のデザインも変わります。特にカラーでの見開きページや、作表等の罫線合わせ等は、ノド部分がポイントになることも多く印刷段階から区別が必要です。次回はもう少しプロらしい内容に突入いたしましょう。製本は奥が深いのです！

Teabreak

アヤメと変換すると菖蒲とでます。ショウブと変換しても菖蒲がでます。カキツバタは漢字こそ違いますが見た目は同じ。そこへハナショウブと言うものが入って四者さっぱりわかりません。どうやらショウブはサトイモ科で、花ショウブとアヤメはアヤメ科だそうです。これは何やらハマリそうな話題になりそうなので次回までにお勉強してきます。製本同様に、これまた奥が深いですね。

by（株）井関製本